

(資料) 身体拘束具について

身体拘束（抑制）とは、衣類または抑制帯などを使用して一時的に患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限をいう。緊急やむを得ない場合は、下記の **3つの要件を全て満たし**、かつ、それらの要件の確認等の手続きが実施されているケースに限られる。

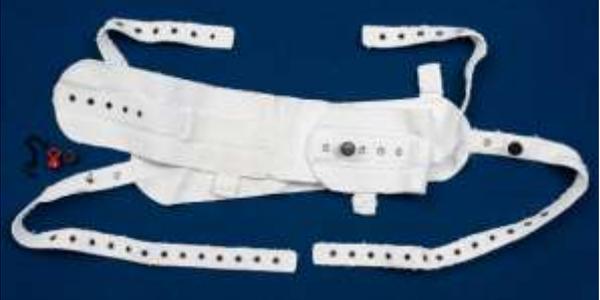
1. 切迫性：行動制限を行わない場合、患者の生命または身体が危機にさらされる可能性が高い
2. 非代替性：行動制限以外に患者の安全を確保する方法がない
3. 一次性：行動制限は一時的であること

【身体拘束具一覧】（表 1）

以下の 2 点と、各拘束帯の使用上の注意点に従い、拘束具を適性に使用する。

- ・使用における合併症の確認を必ず行い、「身体拘束（抑制）カンファレンステンプレート」を使用して記録する
- ・使用前には拘束具に破損がないか確認し、清潔保持のため定期的に交換する。

表 1 身体拘束具一覧

身体拘束具	使用上の注意点
 <p data-bbox="167 1384 311 1422">四肢拘束帯</p>	 <p data-bbox="799 1258 1407 1377">拘束帯はベッドフレームに固定する 患者の周囲には損傷を招く恐れのある物は置かない 患者に埋め込まれているペースメーカーとマグネットキーの間は常に 10cm 離す</p>
 <p data-bbox="167 1736 279 1774">胴拘束帯</p>	 <p data-bbox="799 1720 1407 1899">拘束帯はベッドフレームに固定する 患者の周囲には損傷を招く恐れのある物は置かない ベルトは締め付けすぎず、患者の呼吸を妨げないようにする 患者に埋め込まれているペースメーカーとマグネットキーの間は常に 10cm 離す</p>

身体拘束具	使用上の注意点
 <p data-bbox="167 593 252 622">ミトン</p>	 <p data-bbox="799 651 1353 712">ベルトで手首の太さに合わせる タッチホックは「パチッ」というまで押して留める</p>
 <p data-bbox="167 1108 659 1176">車いす用安全ベルト (車いす用ワンタッチベルトキーパー)</p> <p data-bbox="167 1180 627 1209"><u>本来拘束帯として使用されるものではない</u></p>	 <p data-bbox="799 1077 1331 1167">普通型車いす以外には使用しない 股下部のベルトを座席の下側（裏側）に通さない 襟ぐりが首に掛からないようにする</p>
 <p data-bbox="167 1518 252 1547">抑止着</p>	<p data-bbox="799 1218 1410 1335">金具（鍵、ホック、ファスナー等）やゴムによる皮膚の圧迫、損傷、挟み込みに注意する。 素材による皮膚の不快感がないよう、必要時下着を使用する。</p>
 <p data-bbox="167 1939 659 1968">おきたくん（クリップ式離床センサー）</p>	<p data-bbox="799 1650 1410 1832">機器の落下がないよう確実に固定する。 クリップによる皮膚圧迫や損傷、挟み込みがないよう注意する。 クリップコード（ひも）が首等に絡まらないよう、患者の動きや状況に合わせて長さや固定位置を調整し、作動を確認する。</p>